

大地に平和を取り戻す

—— 紛争地の地雷・不発弾処理を担う日本人



どうこう たかひさ
道幸 孝久さん

日本地雷処理を支援する会
2022年6月末まで事務局長。現在は理事兼非常勤職員

対人地雷の被害を食い止めるために1997年に結ばれたオタワ条約。被害当事国に埋設地雷の除去等を義務付けるとともに、その他の国は地雷除去や被害者支援等の地雷対策について資金や技術面で支援することが規定されています。これは従来の軍縮条約には見られない取り決めで、そのためオタワ条約は「人道条約」とも言われています。NPO法人「日本地雷処理を支援する会」は活動を始めて20年。地雷・不発弾なき世界を願う、その息の長い活動を事務局長の道幸孝久さんにお聞きしました。(近藤敦子)

生き続ける脅威

——地雷はいつごろから使用されたのですか？

道幸 1861年から始まった米国の南北戦争には地雷のような仕掛けが登場し、第一次世界大戦で対戦車地雷が、第二次世界大戦で対人地雷が始まったと言われています。

——地雷は簡単に作れるのですか？

道幸 仕組みは簡単で、費用も数百円ほどで作れます。かつては金属製でしたが、最近はプラスチック製が多くなっています。

——世界中でどのくらい地雷が埋まっているのでしょうか？

道幸 「ランドマインモニター」という地雷にまつわる情報をまとめた報告書によれば、2020年で6,000万発から7,000万発だと言われています。現在、世界で地雷を保有していると考えられる国は32カ国。1990年代は120以上の国が持っていましたから、減少しています。

——しかし、紛争地では地雷による被害が続いています。

道幸 2020年の世界の地雷による死傷者は7,073人でうち死亡が2,492人、負傷者が4,561人、生死不明は20人、1,872人の子どもが被害を受けています。民間人は80%を占めています。地雷は一度埋められたら40年でも50年でも生き続けます。戦争終了後、何年も経ってから関係のない民間人が被害に遭う。「悪魔の兵器」と言われる由縁です。

——「地雷を踏む」と言いますが、危険性はどのようなものですか？

道幸 地雷は地面からわずか3～5cmほどの深さに埋められ、わずか2～5kgの力で爆発

します。

——たった2kgですか……。

道幸 片足を載せただけで、人が踏むまでもありません。助かる確率が高いのですが、重傷だと手足を失う。程度によっては生活に支障をきたします。対人地雷にはさまざまなタイプがあり、地雷から罫線^{わな}を引っ張って、それに足を引っかけると地雷が飛び出し破片を撒き散らすものや、最近では冷蔵庫を開けたら爆発するように仕組んだ即席爆弾(IED)も使用されています。

子どもが犠牲になることの多いのはプロペラやボール型をしたもので、上空から撒かれた散布型地雷やクラスター爆弾です。子どもは知らずに投げて、衝撃を与えた途端爆発します。クラスター爆弾はラオスに多く見つかっています。

——対戦車地雷は？

道幸 重量は8kg程度で、120～150kgのほどの圧力がか



処理作業中のCMAC(カンボジア地雷除去活動センター)隊員。地雷探知機を使う

からないと爆発しません。大型なので金属探知機ですぐに見つかりますが、信管（起爆装置）を外して地面から持ち上げたら爆発したり、上に丸太を置いて見つかりにくいように仕掛けられてあったりするので、除去には細心の注意が必要です。爆発したら、その威力はすさまじいものです。

戦闘の過去を乗り越えて

—除去はどのように進めるのですか？

道幸 藪などで、まず木を地面から 10 cm ほど残して切り、スタートラインから数十 cm 幅で地面にロープを張ります。作業員は横並びになって、金属探知機を当てます。ピッピッと音がしたら目印をし、脇から探知棒を入れて存在を確認します。慎重に掘り出し、爆破処理します。なかには傾けただけで爆破するものもあり、探知棒を入れるのも危険な作業です。この作業を数十 cm ずつ繰り返しながら前進するので、まるで尺取虫だと言っています。ある程度調査をして、対戦車地雷がないと分かれば、対人地雷除去機を入れる場合もあります。ブルドーザーの前面に鎖が付いたもので、地雷を破壊しながらどんどん土を掘り起こしてゆきます。人がやるより格段に早く処理できます。除去し終わったら、もう一回探査をかけ、安全が確認できたら地元へお渡しします。

—その土地はどのように使われますか？

道幸 地雷処理をした跡地は、その後発展しています。農地になったり、道路が敷設されたり、スーパーマーケットや学校が建設されたりしています。道路ができたおかげで、町から野菜を買い付けに来るようになったとか、「子どもを学校にやれるようになった」と聞いて、うれしかったですね。

—地雷は減っているのですか？

道幸 JMAS と共に活動している機関も含めての数字ですが、JMAS はこれまで 42 万発、7,267 ヘクタールの土地を安全化しました。除去した地域の拡大とともに、さまざまな対策も功を奏しています。例えば、①国が村を回って聞き取り調査をし、戦闘や被害のあった事実を把握することで、危険

地域の線引きができるようになった。②「危険回避教育」が徹底して行われ、子どもも大人も危険地域には近づかなくなった。③売れば金になると手を出し、被害に遭う人が多かった不発弾はいたる所に転がっていたが、今はほとんど片付いた、といった状況の改善によるものです。

技術を伝える重要性

—パラオとミクロネシアでも活動されていますね。

道幸 爆雷の処理と油回収をやっています。爆雷とは潜水艦を沈めるためのもので、太平洋戦争当時、日本軍は徴用した民間船に載せて運びました。しかし米軍の攻撃を受け、爆雷を積んだまま船が沈んでいます。爆雷は 1 つ 160 kg。ピクリン酸という軍用の爆薬が海洋汚染、環境破壊につながるために、引き上げては陸上で焼却処分をしています。500 発ほどのうち 200 数十発を処理し、残りを引き上げているところです。ほかにも小さなタンカーが油を抱えたまま沈んでいるので、漏れてきた油を回収したり、船の状態を調査したり。終戦から 77 年経ちましたが、未だに戦後が続いています。

—JMAS の今後の活動は？

道幸 地雷・不発弾問題の根本的な解決は除去にあると考え、処理技術の普及に取り組んできました。地雷・不発弾の除去について、ほかにできる団体もないので*、JMAS の活動の柱として外せません。ただ JMAS のメンバーも 20 人ほどで限界がありますので、とにかく技術を伝えることが大事です。これからも現地の人たちに技術を教え、地雷・不発弾のない世界を広げてゆきたい。そして、今後は SDGs にも取り組んでいきたい。

—最後に、ロシアの軍事侵攻を受けるウクライナにも地雷の被害が出ています。今回の事態をどう思われますか？

道幸 破壊し尽くされた光景を見て、復興までに相当の年数がかかると考えると、虚しさを感じます。他方、国際関係の厳しさ、防衛の大切さを改めて痛感しました。

*規模は小さいが、愛媛県松山市の IMCCD が地雷除去活動を行っている。

(インタビューは 2022 年 6 月 27 日実施)



発見された 69 式対人地雷

日本地雷処理を支援する会

(Japan Mine Action Service : JMAS)

1992 年、自衛隊は国連平和維持活動 (PKO) の一環としてカンボジアに派遣され、道路建設に従事した。その仕事ぶりが評価され、2001 年にカンボジア側から地雷処理を日本がやってほしいと依頼を受け、元自衛官を中心に NPO 法人を結成。これまでカンボジア、ラオス、アフガニスタン、アンゴラなどで地雷・不発弾処理を行い、現在は処理跡地における農業指導にも支援を広げている。

ちなみに JMAS の事業は、外務省からの補助金による事業と自己資金 (寄付金) による事業の 2 種類で、そこから活動に必要な経費が賄われている。日本人にかかる経費の相手国負担は求めている。 (<https://www.jmas-ngo.jp>)